「令和6年度愛媛県介護生産性向上推進事業費補助金交付」におけるシステム、見守り機器による業務改善実践報告

介護テクノロジー活用による
業務改善報告

2025年5月

社会福祉法人広寿会
特別養護老人ホームひろた

目　次

1. 特別養護老人ホームひろたの概要
2. 課題と目標　（見守り機器編）
3. 機器の導入と導入結果　（見守り機器編）
4. まとめ　（見守り機器編）
5. 課題と目標　（システム編）
6. システムの導入　（システム編）
7. システム導入結果　（システム編）
8. まとめ　（システム編）
9. 総評

１.特別養護老人ホームひろたの概要

2001年　特別養護老人ホームひろた（30床）
　　短期入所生活介護ひろた　（6床）
　　個室 4室、二人部屋 12室、四人部屋 1室

その他の事業

〇小規模多機能型居宅介護事業所

〇居宅介護支援事業所

〇受託事業

通所介護事業所、高齢者福祉センター、配食事業

旧広田村（現：砥部町）

面積　44.37㎢（面積の85.7%を山林が占める）

人口　482人（R7.4.30現在）

砥部町中心部から20㎞に位置している

２．課題と目標

見守り機器編：課題

ヒヤリハット報告書内容別発生件数	
ベランダに出る	5
一人で歩いてる	5
ベッドから転落	4
内出血	3
車椅子からベッドに倒れ込み	2
一階に降りる	1
異食	1
その他	6

事故報告書内容別発生件数	
転倒	28
転落	14
皮膚剥離	7
介助中の内出血	3
切り傷	1
配薬ミス	1
異食	1
その他	3

〇令和5年度の事故報告書・ヒヤリハット報告書の件数が月平均7件（年間85件）発生

内、転倒等　42件

屋外へ出ていた　6件

ベッドからの転落　4件

〇報告書作成に係る時間1件1時間要している

→現状打開策がない状況・・・

〇居室内等での転倒事故等

発生時刻が不明

どのように事故が発生したか不明

２．課題と目標

見守り機器編：課題

〇介護職員の書類作成時間や対策・対策検討に要する時間が1時間程度かかっており業務効率が悪い

〇居室での転倒事故や職員不在時等の事故に関して、どのように発生したかが把握できない

〇居室や職員不在時の事故は、「だったのであろう」と憶測での検討となっているため、すぐに適切な環境作りや再発予防ができない

なんとか事故を
減らしたい！！

２．課題と目標

見守り機器編：目標

〇正確な事故分析・検討ができることによりより確実な事故防止対策が行え、事故の再発を予防することで利用者が安全に生活ができるようにしたい！

〇報告書作成や検討時間を短縮をして業務の効率化を図りたい！

利用者・職員を守りたい！！

３．機器の導入と導入結果

見守り機器編：機器の導入

〇福祉機器の展示会・研修会に参加

参加者：介護主任、ユニットリーダー
システム管理者

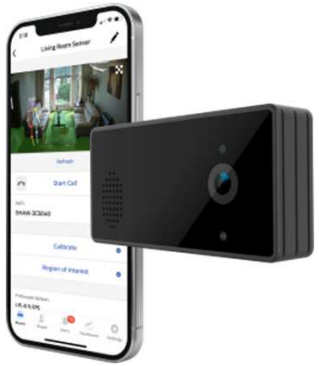
〇複数の機器を実際に確認することができた

〇研修会に参加し、実際に使用している事業所の話を聞くことができた

〇実際に現場職員が参加をすることで資料等を持ち帰り他の職員に伝えることができた

３．機器の導入と導入結果

見守り機器編：機器の導入



〇事業所にて見守り機器デモの開催

参加者

施設長、部長、各事業所の主任、副主任

各事業所のリーダー、サブリーダー

〇業者に依頼をして、デモを行い、見守り機器の最終選考を行う

〇パンフレットや他者の話を聞くだけでなく、実際に見て体験することで疑問に思う内容等のすり合わせができた

〇AI見守りセンサー「センティネア3」を導入することに決定する

３．機器の導入と導入結果

見守り機器編：機器の導入

〇機器導入までの流れ

・利用者家族への見守り機器設置の案内と同意書の依頼

・機器使用の研修会の開催

・各居室の設置位置の検討

・設置器具やコンセントの増設

・顔認証の為の利用者の写真登録や設定

・事故報告書様式（Excel）を作成

３．機器の導入と導入結果

見守り機器編：導入結果

〇設置当初と対応

・アラートが頻回に鳴り確認する時間と手間がかかる

→システムのアップデートにより改善

・設置位置によって顔認証が十分にできない

→設置位置（高さや角度）の調整にて改善

・居室によってWi-Fiの電波が弱く途切れる

→Wi-Fi中継器を増設にて改善

・確認用スマホを常時持ち歩くことに不慣れ

→日勤帯：早出　夜勤帯：夜勤者
　が常に携行するよう徹底

・サービスステーションでのモニターをあまりみない

→パソコンを設置している机の環境を
　整備してモニター設置場所を変更した

４．まとめ

見守り機器編：まとめ

〇家族に同意書の案内を送った際に、画像や動画の流出の心配の声があった。その都度説明を行い理解を得ることができた

〇設置当初はアラートが頻回に鳴ってしまい、職員負担が一時的に増えた。それにより導入に対して否定的な意見もあった。介護主任が意見等を取りまとめ随時改善していくことで徐々に浸透していくことができた

〇令和5年度に比べて今現在の事故発生件数は減っている。年間通して使用していき効果を検証していく

〇PC等の機器に苦手意識を持っている職員には随時個別にマニュアルを作成し理解操作ができるように整えていく

５．課題と目標

記録システム編：課題

〇記録入力システム導入し、PCやタブレット端末で記録を入力している。操作が苦手な職員はかなり時間を要している

〇利用者の記録データを基に十分な分析ができていない状態分析ができておらず感覚での話し合いになっている

〇外国人技能実習生は日本語での入力が不慣れで十分な記録入力ができず、他の職員にお願いすることが多い

〇リーダー等、利用者の総合的分析を行い、それを基に会議等で相談をしている。分析するにあたって過去のデータを確認する為かなり時間を要している

〇停電になるとネットが通じなくなり復旧後、記録をまとめて入力している（整合性がずれる）

５．課題と目標

記録システム編：目標

〇PC操作等苦手な職員も抵抗なく記録入力ができるようにしたい

〇職員の感覚でのケアの変更ではなく、記録データに基づいて分析をして適切なケアに反映していきたい

〇外国人技能実習生でもある程度十分な記録の入力ができ、日本語の勉強にも繋げたい

〇リーダー業務の負担軽減が図れ円滑な業務ができるようにしたい

〇停電復旧後の記録入力の負担をなくしたい

負担が軽減でき空いた時間で他のケアに繋げたい！

６．システムの導入

記録システム編：システム導入

〇事業所にてAIシステムデモの開催

参加者

施設長、部長、各事業所の主任・副主任

各事業所のリーダー、サブリーダー

〇業者に依頼をして、デモを行い、使用方法等の確認を行う

〇実際に画面をみながら操作説明を受けることで業務改善に繋がるのではと「FTCare-i　AIインプットオプション」「 FT-Analysis」等の導入決定

業務改善ができるかも！

６．システムの導入

記録システム編：システム導入

〇機器導入までの流れ

・勤務の都合上、介護職員全員への説明会開催が難しい為、操作方法のマニュアルを作成しユニットに配布する

・主任・リーダーを中心に手書き入力シートの調整をする

・AIシステムを活用して指定期間の評価方法、操作説明を主任、リーダーに伝え、各ユニット職員に伝えてもらう

・各ユニットで出た不具合等を主任が取りまとめ業者とすり合わせを行う

７．システムの導入結果

記録システム編：導入結果

〇慣れていない状況で、全員の記録を手書きで書きそれを読み取ったときに不具合で再度入力をしないといけなくなっては手間が増える。
→安定して取り込みができるようになった段階と職員全員が操作可能になるまでは一部利用者のみでの対応とする

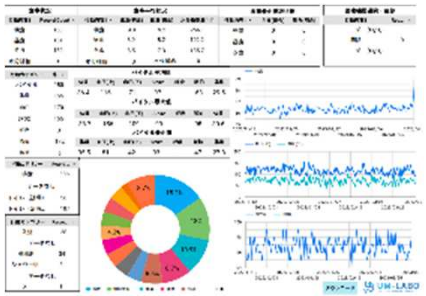
〇手書きやタブレット端末での入力以外に音声入力ができ、移動しながらでも記録入力ができるので便利

〇手書きと操作に関しては簡単にできるのでタブレット端末を開いて操作するよりかはその都度記録ができるので慣れやすい

〇1ヶ月の記録の見直しや平均値、状態変化のまとめが容易にでき、記録内容によってはどのように対応したらいいかの提案もあるので、そのまま検討に繋げていくことができるので集計時間や検討時間が減った

7．システムの導入結果

記録システム編：導入結果



○FT-Analysisに関しては、記録データを基に個別での、期間の状態や平均値がすぐに確認できるようになった。受診の際に持参することで医師に状況を伝えやすくなった

○過去と現在の状態を記録データで比較することでどのように変化しているかの把握ができ、ケア検討の参考になる。特にADLの比較を基にリハビリに繋げることができる

○記録項目ごとやどの時間帯にどのようなケアが集中しているか等一目でわかるようになった。それを基に職員配置等の調整に役立てていきたい

○生産性向上加算の集計に関して記録データを基に集計ができるので時間短縮に繋がっている

８．まとめ

記録システム編：まとめ

〇今まで行ってきた環境が変わることでまた覚えなおさないといけないことがあり、職員個々の得意、不得意により全体が理解・操作ができるようになるまでは時間を要している

〇不規則勤務である為全体への伝達等が遅れる場面が見受けられた

〇ある程度慣れてくると得意な職員中心に操作方法等の教え合いができるようになった

〇記録の見直し作業時間が1時間程度要していたが、1分程度で評価ができ見直し時間が短縮され、提供された資料を基に相談・検討することで、データを基に検討ができるようになった。それにより、業務の効率化と負担軽減に繋がっている

総評

システム導入に始めは、不安に感じる職員が多くいたが、実際に使い始めると、操作方法が簡単で入力方法もその人にあった方法を選ぶことができることが成果として大きかった。評価方法等、慣れることで介護業務に時間を使えるようになり、業務負担が減った。

停電時の対応についても、BCP計画に盛り込み、手書きの記録を写真にとり、停電復旧後に読み込むことで記録に反映できるよう訓練も行っている。

見守り機器に関しても、活用方法を理解することで未然に事故が防げたり、事故が発生しても画像データを基に検討を行ったりすることで、再発予防対策がとりやすくなった。

間接的な業務負担が減ることにより、直接的な介護業務に時間を割り振ることができ、総合的に見ても業務改善ができつつある。

今後も継続して生産性向上を図り適切なケアの提供と職員の負担軽減に努めていきたい。